



鈴木 じゅんじ 支部長 愛知県第7選挙区

(瀬戸市、大府市、尾張旭市、豊明市、日進市、愛知郡)

を振っていく車もある。早朝の街角、通勤時間帯のいつもの光景だ。

昨年総選挙で議席を失った翌朝も街に立った。以来、連日の早朝活動が続く。のぼり旗を手に一人街頭に立ち始めたのは、今から8年半前の厳冬期、

はあいさつ回りに出掛ける。「ピンポン」……地域ごとの対話集会の案内を持って、周辺の家庭を一軒一軒訪ねて歩く。「ああ、いつも立っている人ね」「応援したけれどなあ」「もう何とかしてくれよ」「自民党はもう少しいっかりして」

歩いて、話して、握手して 今こそ、原点に戻る好機

まだ初当選前のことだったが、

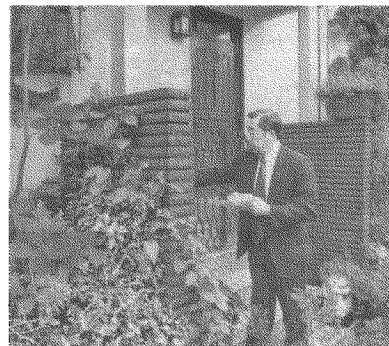
それ以来、早朝のあいさつ活動は今日まで欠かさず続けている。現職になって以降も、地元にいる限り欠かさず立ったが、

浪人中の今は、また昔と同じように毎日街頭に立ち続ける生活に戻った。街頭活動を終えて一度事務所に戻り、事務仕事を手早く済ませると、次

れないと「……さまざまな反応が返ってくる。政権交代したものの、マニフエストをことごとく違える現政権と、与野党問わず混乱の極みにある政治の現状に、国民の間に怒りが蔓延しているのがよく分かる。自分は民主支持だが、今度は民主にお灸を据えないといけない」……かつてどこかで聞いたような言葉もあった。

熱に浮かされたような昨年の

三二集会の案内を手に一軒一軒歩く。地域の人たちとの触れ合いに、新鮮な感覚が戻る



政権交代劇。初当選以来2期5年8カ月、ようやくこれから本当の仕事だと思った矢先の敗戦だけに悔しい。しかし、その後の民主党政権の支離滅裂な迷走ぶりを見るにつけ、「やはり」との思いは強い。

厳しい試練には違いないが、今回の敗戦はあえて「原点回歸」の好機ととらえたい。久々に街中からダイレクトに感じる「気」は新鮮だ。

選挙に初挑戦した時のような純粋な気持ちに戻って、再度、一歩一歩大地を踏みしめて歩きたいと思っている。



初当選前から8年半、毎朝欠かさず続けているあいさつ活動(瀬戸市内)

事務所に戻り、事務仕事を手早く済ませると、次